

フランス発 ⇒ 所沢行き

ちょうど 100 年前の 1918 年（大正 7 年）、日本は航空技術を学ぶため、当時世界一と言われていたフランスに協力を求めました。フランスは快諾し、翌年、航空教育団を率いて来日したのが、フォール大佐です。同時に輸入した数十機の飛行機を使い、本格的な訓練が行われました。



▲所沢初の西洋料理店・美好軒（現・割烹美好）には、フランス将校が足しげく通ったという

フォール大佐の来日とほぼ同時期に、日本初の航空教育機関が所沢に誕生。関連需要で所沢の人口は飛躍的に増え、町の発展をもたらしました。

日本の航空技術を飛躍的に高めたことに敬意を表し、フォール大佐の胸像が作られ、所沢航空記念公園内に設置されています。



◀フォール大佐は日本文化を尊重し、箸を使ったそう。100 年前から愛されている割烹美好の名物・フォールカツレツセット（税抜 1,800 円）は、ランチタイムで提供中。

割烹美好 ☎ 2923-2266

場有楽町 13-8（航空公園駅から徒歩 8 分） 休水曜

時▶ランチ…午前 11 時 30 分～午後 2 時 30 分

▶ディナー…午後 5 時～10 時（最終注文 9 時）

来年（2019 年）は
来日 100 周年♪



フォール大佐

▲所沢航空記念公園内の茶室・彩翔亭の正面玄関を出て、左に下って行くと左手にある。戦時中に一度失われ、復元したもの。

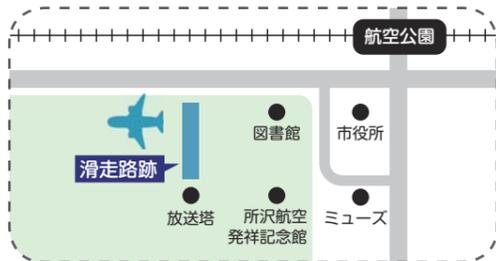
飛行場の今昔めぐり

飛行場があったころの面影が、市内のあちらこちらに残っています。所沢の歴史や魅力を発信する「所沢観光コンシェルジュ」のお二人と一緒に、タイムスリップしてみましょう！

①滑走路跡



所沢航空記念公園内の沈床茶園（所沢航空発祥記念館と彩翔亭の間にある、少しくぼんでいるエリア）は、かつて滑走路でした。飛行場開設時は 50m × 400m ほどで、現在の放送塔を越えて広がっていました。



一番左の写真に写っている建物は気象観測所で、飛行機が飛べるかを判断していました。このアンリ・ファルマン機の後ろにもありますね！



所沢観光コンシェルジュ
中村さん

②飛行機新道



飛行場で使う飛行機は、鉄道で所沢駅まで運び、駅からは振動の少ない牛車で運んでいました。効率的に運ぶため、竹林を切り開いて作ったのが飛行機新道です。



観光コンシェルジュのガイドツアーで、さらに詳しくご案内します。私たちと一緒に航空発祥の地・所沢を歩いてみませんか？

所沢観光コンシェルジュ
山本さん

無料のガイドツアー実施中！
詳細は市庁舎（Q観光コンシェルジュ）へ。
商業観光課 ☎ 2998-9155

